

〔科目名〕 知の挑戦 II				〔単位数〕 4単位		〔科目区分〕 演習科目	
〔担当者〕 三浦英樹						〔授業の方法〕 演習	
〔演習テーマ〕 演習テーマ「自然地理学と歴史学の視点から自然と人間の関係(環境史)を探り、地域の未来について考える」 ① 現在の人類の位置づけを知り、自然と人間の相互関係について考えること ② 持続可能な社会を作るための自然を生かした技術や文化について考えること ③ 人間がもともと持っていた生態知、在来知、暗黙知の記録・評価を行い、現代社会への活用について考えること							
〔演習内容〕 自分が興味を持った課題に関する先行研究の紹介・批判的検討とその内容の発表、課題に関連するテーマのフィールドワークの計画と調査結果の発表、および卒業論文の課題設定と研究計画案の作成と執筆の指導を行う。							
〔科目の到達目標〕 「風景と自然を読む技術」、「人間と自然の関係性とその歴史を読む技術」、「調べたこと、観察したことを他人に伝える技術」を習得すること。「地理空間情報学(地図の読み方)」、「地形地質学」、「自然環境学」、「地域の自然と人間の歴史」の基本をもとに自分の興味・課題を絞り込み、先行研究を批判的に読み込むこと。卒業論文の課題設定と研究計画案を作成すること。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3	
〔前提条件〕 ・専門科目の「自然史・地理情報と地域創造」を合わせて履修すること。 ・風景(地形)の成り立ちに強い興味がある人、自然が大好きで山や森に出かけたいという志向がある人、自然の成り立ちやそれと関わる人々の歴史や伝統文化・技術に興味がある人、地図を読むのが大好き(になりそう)という人。 ・① 対象とする地域の自然の成り立ちやそれと関わる人々の歴史を明らかにして、それを人にわかりやすく説明しようとする意欲があり、② その知識をどのように、地域の魅力に繋げていくかというアイデア創出を楽しめる人。 ・難しい数学や科学の知識は必要ないが、それらの説明を理解しようと前向きに取り組める人、野外を長時間歩いたり、穴を掘ったり、崖を記載したり、植物を丹念に調べて地図に落とす、顕微鏡観察など、泥臭い仕事を黙々と根気強く行う能力を持っている人。 ・文献をきちんと読んでまとめて発表できる意欲と能力がある人。あるいはそれを身につける努力をいとわない人。 ・夏休みや土日を含めて、長く(あるいは頻繁に)フィールド調査に出られる時間の余裕、フィールドワークに係る経費の自己負担が必要になるので、その余裕がある人。 ・演習やフィールドワークで必要となる「地形を感じる3D地図アプリ『スーパー地形』」(iOS版:960 円、Android版:年間750 円、パソコン版:年間1680 円)を購入してもらうので、それが可能な人。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) レポートの内容、演習・フィールドワークへの取り組み状況にもとづいて総合的に評価する。							

【教科書等】 貝塚爽平他編(2019)『写真と図で見る地形学 増補新装版』東京大学出版会 他は、その都度指定する	
【実務経歴】 なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
時期	テーマと内容
第1回 ～ 第3回	テーマ:「地理空間情報学」、「地形地質学」、「自然環境学」、「地域の自然と人間の歴史」、「青森県を中心とした北東北地域の地理学的知識」の習得 内容: テキスト『写真と図で見る地形学 増補新装版』を分担・発表を行う。
第4回 ～ 第8回	テーマ:「地理空間情報学」、「地形地質学」、「自然環境学」、「地域の自然と人間の歴史」、「青森県を中心とした北東北地域の地理学的知識」の習得 内容: 自分が興味のある地域の地形発達史、自然環境、人の歴史の紹介・発表。
第9回 ～ 第15回	テーマ: 卒業論文の課題の絞り込み 内容: 自分が興味のある課題についての先行研究の紹介と発表。
夏休み	自分の興味がある地域と課題に関するフィールドワークを行い、地形や自然環境と人間の生活・文化・歴史に関する調査を行う。
第16回 ～ 第30回	テーマ: 卒業論文の課題の絞り込みと研究内容の議論 内容: 自分が興味のある課題についての紹介と発表。